

# 2003年度環境活動ダイジェスト

当社における2003年度の環境活動の中で主な活動結果を紹介します。

## トピックス

### 中部地域のPCB処理事業に参画

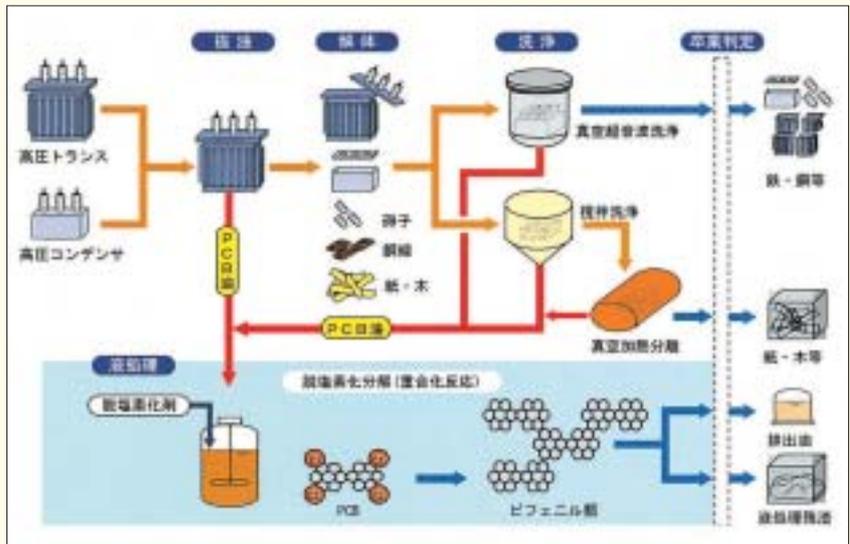
絶縁材料としてトランス・コンデンサなどの電気設備に利用されてきた「PCB(ポリ塩化ビフェニル)」を含む有害な廃棄物の多くは、無害化处理されず事業者に保管されたままとなっており、適正処理の推進が課題とされてきました。国内外でPCB廃棄物の処理が義務づけられてきたこともあり、その処理体制整備が急務となっています。

現在、国の指導のもと全国5カ所で広域処理施設の整備が進められるなか、当社は、2003年7月に株式会社神鋼環境ソリューションと共同企業体を組み日本環境安全事業株式会社(前環境事業団)より「豊田PCB廃棄物処理施設」(愛知県豊田市)の建設工事を受注しました。これは、中部地域(東海4県)に保管されてきたPCB廃棄物などを約10年間で処理する施設を建設するものです。

施設的设计施工にあたっては、安全性について十分に検討し、地域環境の保全を図るとともに、地域環境に関する情報の公開により市民の皆様安心して頂ける施設をめざしていきます。



豊田PCB処理施設のイメージ図



PCB廃棄物処理の流れ

### 六本木ヒルズに900台 快適空間を提供するクボタ空調機

東京・六本木に2003年4月オープンした国内最大級の市街地再開発プロジェクト「六本木ヒルズ」。メインタワーである地上54階建て「六本木ヒルズ森タワー」のオフィスフロアをはじめ、ホテルなどの周辺施設に当社の空調機約900台が納入され、この街へ集う人々に快適な空間を提供しています。



六本木ヒルズ(全景)

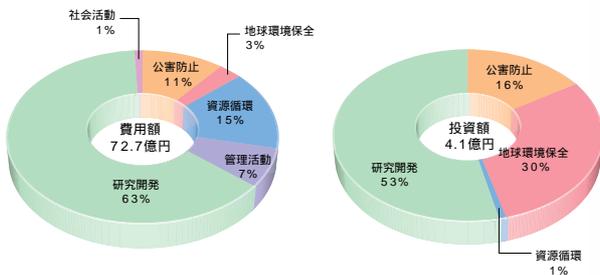


六本木ヒルズに納入された「省スペース・省工事」が特長のスモール形空調機(EJSシリーズ)

## 環境会計

P19

2003年度の環境保全コストの内、クボタ単独の費用額は71.7億円(研究開発費用45.6億円)、投資額は、4.0億円でした。子会社を含めた費用額は72.7億円、投資額は4.1億円、環境保全活動に伴う経済効果は12.4億円となりました。

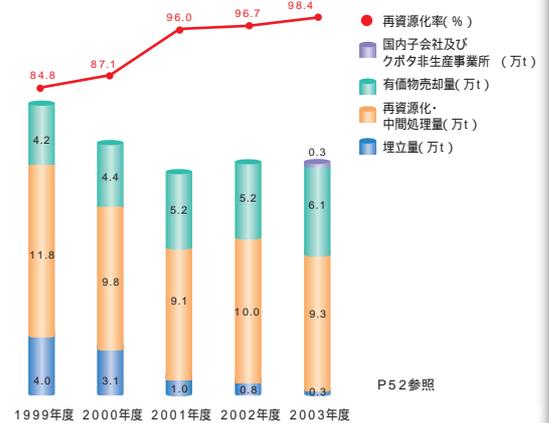


## ゼロ・エミッション化

P20

廃棄物排出量は2000年度比24.4%削減することができました。16事業所でゼロ・エミッション化を達成し、その結果埋立処分量は2000年度比90%削減することができました。また、再資源化率は2000年度比11.3ポイント向上し、98.4%となりました。

廃棄物排出量・有価物売却量・再資源化率推移

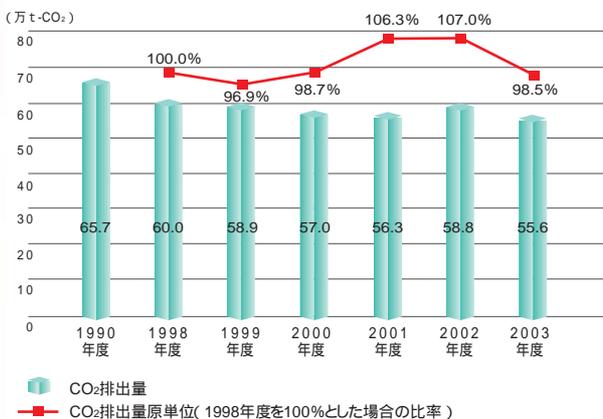


## 地球温暖化防止 (省エネルギー活動)

P21

クボタ国内生産事業所では、1998年度を基準として1999年度から2003年度の5年間で、CO<sub>2</sub>排出原単位を5%以上削減することを目標とした第3次省エネルギー活動を推進してきましたが、その結果、対象17事業所中、6事業所が目標を達成しました。対象事業所全体では、CO<sub>2</sub>排出原単位は1.5%改善し、2003年度のCO<sub>2</sub>総排出量は55.6万t-CO<sub>2</sub>となりました。

CO<sub>2</sub>排出量推移(クボタ国内生産事業所)



## 化学物質管理

P25

PRTR法対象事業所において、29物質の届出を完了しております。

PRTR法第1種指定化学物質の排出量は前年比5.3%削減、移動量は前年比7.6%削減、総量では5.5%削減しております。今後は、当社の排出移動量の約90%を占めているキシレン、トルエン等のVOC(揮発性有機化合物)の排出量削減を重点的に推進して参ります。

PRTR法対象物質の排出移動量の推移(t)

